

資料3

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考
		水準	動向	20年	21年	22年	23年	漁獲シナリオ (管理基準)	20年	21年	22年	23年 (案)	
すけとう だら	<p>【中期的管理方針】 日本海北部系群及び太平洋系群については、近年の海洋環境等が資源の増大に好適な状態にあるとは認められない。このため、資源水準の低下が顕著となっている日本海北部系群については、資源回復計画に基づく取組により、資源の減少に歯止めをかけることを目指して管理を行うものとする。太平洋系群については、資源の回復を基本方向としつつも、回復のための措置が関係漁業者の経営に大きな影響をあたえる場合には資源水準を維持する等回復のスピードに十分配慮して、管理を行うものとする。</p> <p>その他の系群については、ロシア共和国連邦の水域と我が国の水域にまたがって分布し、同国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみでの管理では限界があることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとする。</p>												
	日本海北部	低位	減少	0.42	0.93	0.97	0.71	親魚量の増大 (⑤)	2.0	1.6	1.6	1.3	<p>【TAC設定の考え方】 【日本海北部系群】 資源回復計画(努力量削減、小型魚保護等)と組み合わせた資源管理を実施。資源が低位で減少傾向にあるものの、漁業経営におけるスケウダラへの依存度が高いことを踏まえつつ、TAC(案)は2割程度削減の13,000トンとする。(北海道知事管理分の一部(1,000トン)については留保)</p> <p>【オホーツク海南部】 ロシア水域とのまたがり資源であることから、最大の来遊状況に対応できるよう、近年の最大漁獲量27,279トン(20年漁期)をベースに、TAC(案)28,000トンとする。(またがり資源であることから、漁期中に当初の想定を上回る状況が見込まれた場合には、期中改定が有り得る。)</p> <p>【根室海峡】 ロシア水域とのまたがり資源であることから、最大の来遊状況に対応できるよう、近年の最大漁獲量(実績値)10,477トン(20年漁期)をベースに、TAC(案)11,000トンとする。(またがり資源であることから、漁期中に当初の想定を上回る状況が見込まれた場合には、期中改定が有り得る。)</p> <p>【太平洋系群】 資源全体として中位で減少傾向にある。しかしながら、親魚量は良好な状態で安定的に推移していることに加え、広範な分布域において漁場形成が毎年大きく変動することや漁業経営への影響も勘案し、TAC(案)は前年と同数を基本に、22年漁期に北海道において先行利用を実施(10,000トン)したことによる実績分(4,400トン:23年1月現在)を削減し、TAC(案)は166,600トンとする。</p> <p>※ TACの管理期間は、すけとうだらは、「4月～翌年3月」</p>
	オホーツク海南部	低位	増加		-	-	-	-	3.6	2.7	5.2	2.8	
	根室海峡	低位	横ばい		-	-	-	-	1.2	1.3	1.1	1.1	
	太平洋	中位	減少	10.6	12.2	13.0	14.9	2005,2006,2008 年度の平均漁獲 圧の維持	17.1	17.1	18.1 <small>(北海道先行利用1万トン含む。)</small>	16.66	
合計								23.9	22.7	26.0	21.86		

※ オホーツク海南部及び根室海峡については、詳細な生態や資源状況が不明なことからABCの算定を行っていない。

資源評価結果

すけとうだら	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2011年漁獲量 (千トン)	評価			2009年親魚量	Blimit
	水準	動向				10年後にBlimitへ回復する確率	10年後に2006年度親魚量を上回る確率	10年後にBbanを下回る確率		
日本海北部系群	低位	横ばい	<Blim	ABClimit					31千トン	140千トン
				① 親魚量の増大(20年でBlimitへ回復)	2.6	4%	85%	0%		
				② 親魚量の増大(30年でBlimitへ回復)	4.2	1%	64%	1%		
				*③ 親魚量の増大(わずかでも親魚量を増大)	7.1	0%	29%	9%		
				参考値						
親魚量の維持	7.9	0%	21%	16%						
漁獲圧の維持	17.5	0%	0%	96%						

すけとうだら	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2011年漁獲量 (千トン)	評価		2009年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年間Blimitを維持する確率	10年間Blimitを維持する確率		
オホーツク海南部	低位	増加	—	—	—※1	—	—	—	—
根室海峡	低位	横ばい	—	—	—※2	—	—	—	—
太平洋系群	中位	横ばい	≥Blim	ABClimit				238千トン	154千トン
				*① 経験的に適度な漁獲圧による漁獲	84	100%	100%		
				*② 資源量の維持	123	100%	95%		
				*③ 現状の漁獲圧の維持	138	100%	77%		
*④ 2005,2006,2008年度の平均漁獲圧の維持	149	96%	57%						

※1 オホーツク海南部については、当資源は、成長の一時期にオホーツク海南部水域を利用していると推測され、当海域に限定したABC算定は困難であることから、ABCの算定は行っていない。

※2 根室海峡については、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、ABCの算定は行っていない。

※3 *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。